

Daily Macro Economic Insights

貿易収支(通関統計)(2023年5月)

一季調済み貿易収支のマイナス幅は1兆円割れまで縮小



PwC Intelligence シニアエコノミスト 伊藤 篤
チーフエコノミスト 片岡 剛士

輸送用機械(自動車)が牽引する輸出増、エネルギー価格の下落による輸入減少が継続

財務省から、2023年5月の貿易統計が公表された(図表1)。輸出金額(名目)は7.3兆円となり、前年比+0.6%の伸びとなった。財別では、輸送用機器が前年比+38.9%と増加した。電気機器が同-8.0%と5か月連続の減少、一般機械は同-3.7%と2か月連続の減少となった。輸入金額(同)は8.7兆円となり、前年比-9.9%と2か月連続で減少した。主因は、原油等のエネルギー関係の輸入減少。原油及び粗油、液化天然ガス等の鉱物性燃料が同-27.2%と大幅に減少した。輸入減少-9.9%のうち、7.5%ポイントの押し下げ要因となった。

米国・欧州向け輸出は自動車牽引／中国向け輸出は6か月連続のマイナス／半導体製造装置は二桁減

次に名目輸出の動向を地域別に確認しておこう。4月の米国向けは対前年比+9.4%となった。商品別にみると、自動車を含む輸送用機器が寄与度+13.9%ポイントとなった。鉱物性燃料、化学製品が減少した。4月のEU向けは、同+16.6%となった。商品別には輸送用機器が+12.9%ポイントと増加のほとんどを占めたのは米国と同様である。それ以外では、一般機械、原料別製品も増加した。欧米では利上げの影響による経済減速が懸念されているが、輸送用機器を中心に堅調な推移が継続している。一方、中国向けは、同-3.4%と減少し、6か月連続でのマイナスとなった。商品別の寄与度をみると、鉄鋼等の原料別製品、電気機器、一般機械が減少している。輸送用機器は横ばいとなったものの、中国の国内需要の弱さが窺える。また、7月23日から経済産業省の輸出規制が導入される半導体関連もみておこう。4月の中国向け半導体製造装置は、前年比-10.8%となった。2022年以降、年間1.2兆円程度の規模で安定しているが、今後規制導入による輸出減少が懸念されている。もっとも、規制対象となるのは最先端の装置に限られるため、最先端でない装置の輸出は継続するとの見方もあり、その影響を慎重に見極める必要がある。また、中国以外のアジア向けは、同-10.4%となり、2か月連続の減少となった。中国経済の回復の遅れの影響が出ているとみられる。

図表1: 貿易収支の推移

	名目(兆円)			名目・前年比(%)										輸出総額			輸入総額		
	輸出	輸入	収支	地域別				商品別			商品別								
				米国	EU	中国	中国以外のアジア	輸送用機器	一般機械	電気機器	鉱物性燃料	電気機器	化学製品						
2021年	5月	6.3	6.5	▲0.2	49.6	87.9	69.6	23.7	38.7	118.9	40.5	35.3	28.1	72.2	24.9	30.6			
	6月	7.2	6.9	0.4	48.6	85.7	51.1	27.7	43.8	68.1	42.0	41.8	32.9	87.9	28.2	11.4			
	7月	7.4	6.9	0.4	37.0	26.8	46.1	18.9	42.2	44.8	35.8	30.8	28.2	80.0	21.8	20.9			
	8月	6.6	7.3	▲0.7	26.2	22.8	29.9	12.6	35.4	11.5	31.7	17.1	44.9	106.0	24.2	61.1			
	9月	6.8	7.5	▲0.6	13.0	-3.3	12.1	10.3	28.5	-24.5	23.7	14.4	38.7	91.7	33.4	53.4			
	10月	7.2	7.3	▲0.1	9.4	0.3	12.1	9.6	18.5	-28.7	22.9	10.5	27.1	91.2	11.2	26.7			
	11月	7.4	8.3	▲1.0	20.5	10.0	16.4	16.0	30.4	4.3	22.6	14.3	44.1	144.7	9.9	48.8			
	12月	7.9	8.5	▲0.6	17.5	22.1	9.7	10.8	20.5	10.2	17.6	15.0	41.4	122.8	26.7	44.8			
	2022年	1月	6.3	8.6	▲2.2	9.5	11.4	16.1	-5.4	13.0	-0.5	6.9	8.4	39.0	83.5	27.5	50.0		
		2月	7.2	7.9	▲0.7	19.1	16.0	8.8	25.8	24.9	4.3	19.7	15.9	34.6	80.3	15.5	59.9		
		3月	8.5	8.9	▲0.5	14.7	23.8	16.7	2.9	18.5	-1.2	15.8	15.6	31.9	82.5	15.6	43.0		
		4月	8.1	8.9	▲0.9	12.5	17.5	19.2	-5.9	20.3	4.8	6.6	8.7	28.3	110.3	7.3	27.0		
5月		7.3	9.6	▲2.4	15.8	13.7	10.5	-0.3	28.5	-5.4	13.2	11.1	48.5	148.9	36.3	25.3			
6月		8.6	10.0	▲1.4	19.2	15.7	22.2	7.4	25.9	3.4	14.3	17.1	45.6	137.8	32.6	33.9			
7月		8.8	10.2	▲1.4	19.0	14.0	31.7	12.8	26.1	14.6	17.3	13.8	46.9	125.9	31.2	28.4			
8月		8.1	10.9	▲2.8	22.0	33.8	16.7	13.4	20.9	30.8	17.0	13.0	49.3	119.5	38.4	26.8			
9月		8.8	10.9	▲2.1	28.9	45.2	33.2	17.0	22.6	75.0	23.8	19.5	45.8	117.0	38.4	34.4			
10月		9.0	11.2	▲2.2	25.3	36.5	28.1	7.7	21.9	61.4	17.6	17.9	53.6	108.0	45.5	52.9			
11月		8.8	10.9	▲2.0	20.0	32.6	32.0	3.5	16.4	33.8	18.9	11.4	30.3	60.7	24.1	32.5			
12月		8.8	10.2	▲1.5	11.5	16.9	27.0	-6.2	10.4	14.5	13.2	6.2	20.8	44.2	8.7	30.2			
2023年	1月	6.6	10.1	▲3.5	3.5	10.4	9.5	-17.1	2.3	9.2	4.5	-1.5	17.6	48.1	11.3	1.9			
	2月	7.7	8.6	▲0.9	6.5	14.9	18.6	-10.9	4.0	16.1	1.4	-1.7	8.5	19.4	15.6	-2.1			
	3月	8.8	9.6	▲0.8	4.3	9.4	5.1	-7.7	2.5	23.0	1.7	-4.5	7.4	13.2	8.8	-15.0			
	4月	8.3	8.7	▲0.4	2.6	10.5	11.8	-2.9	-8.0	19.8	-0.1	-4.3	-2.3	-17.7	12.7	-3.7			
	5月	7.3	8.7	▲1.4	0.6	9.4	16.6	-3.4	-10.4	38.9	-3.7	-8.0	-9.9	-27.2	-2.2	-13.1			

出所: 財務省より筆者作成

次に貿易収支の動きを、財務省の季節調整値でみると(図表2)、5月の輸出は8.0兆円(前月比-3.1%)、輸入は8.7兆円(同-5.6%)となった。この結果、貿易収支は-7,778億円のマイナスとなった。マイナス幅が1兆円を割り込むのは、2022年1月以来、1年4か振り。これまでの流れを振り返ると、貿易収支は2021年8月よりマイナスとなり、エネルギー価格の上昇を主因に2022年7月~10月には2兆円強までマイナス幅が拡大した。その後、エネルギー価格の落ち着きを受けたマイナス幅の縮小傾向が継続している。

5月の実質輸出入動向:輸出は4か月ぶりの減少、輸入は大幅な減少

足元の輸出入は価格変化の影響を大きく受けているため、日本銀行の公表する物価の影響を除いた実質輸出入指数(季節調整済)を確認しておこう(図表3)。5月の実質輸出(図表3、4)は、前月比-3.5%となった。昨年11月~本年1月の3か月連続の減少の後、本年2月~4月に3か月連続でのプラスとなっていたが、5月は再び下落に転じた。また、実質輸入(図表3、5)は、前月比-6.2%とやや大幅な下落となった。先行きについては、欧米経済は、利上げが継続することによる景気減速懸念が強い。中国・アジア向けについては、中国経済の回復が期待されたほどの力強さではないため、緩やかな回復に留まろう。

図表2:名目(季節調整済)の貿易収支

		名目(季節調整済)		
		輸出	輸入	収支
		(兆円)		
2022年	1月	7.5	8.4	-0.91
	2月	7.6	8.6	-1.03
	3月	7.7	8.7	-1.01
	4月	7.8	9.2	-1.48
	5月	8.0	9.8	-1.79
	6月	8.3	10.2	-1.92
	7月	8.5	10.6	-2.12
	8月	8.4	10.7	-2.29
	9月	8.6	10.6	-2.01
	10月	8.7	11.0	-2.26
	11月	8.6	10.4	-1.86
	12月	8.3	10.1	-1.82
2023年	1月	7.8	9.6	-1.81
	2月	8.1	9.3	-1.22
	3月	8.0	9.3	-1.23
	4月	8.2	9.2	-1.04
	5月	8.0	8.7	-0.78

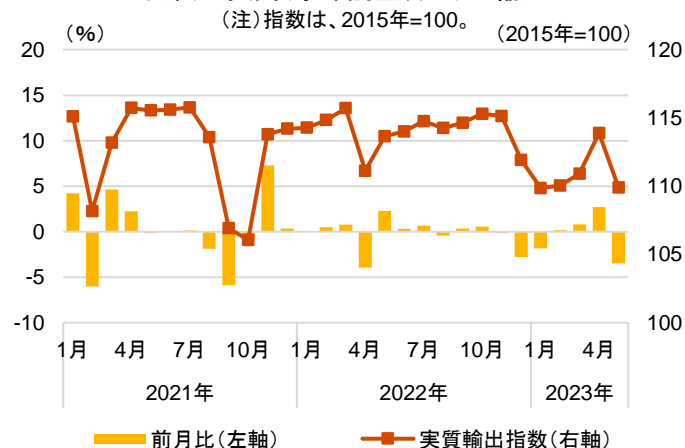
出所:財務省より筆者作成

図表3:実質(季節調整済)の貿易収支

		実質輸出(季節調整済)			実質輸入(季節調整済)		
		指数	前月比	前年比	指数	前月比	前年比
		(注)	(%)	(%)	(注)	(%)	(%)
2022年	1月	114.3	0.1	-0.7	108.1	2.3	5.0
	2月	114.8	0.5	6.2	110.4	2.1	4.5
	3月	115.7	0.8	2.2	108.2	-2.0	6.5
	4月	111.1	-4.0	-4.0	106.7	-1.4	-2.6
	5月	113.7	2.3	-1.6	111.7	4.7	7.1
	6月	114.0	0.3	-1.4	110.8	-0.8	3.8
	7月	114.8	0.7	-0.9	111.8	0.9	7.6
	8月	114.3	-0.4	0.6	113.0	1.1	6.8
	9月	114.6	0.3	7.2	111.9	-1.0	6.1
	10月	115.3	0.6	8.7	116.2	3.8	16.5
	11月	115.1	-0.1	1.2	112.7	-3.1	6.7
	12月	111.9	-2.8	-2.0	109.2	-3.1	3.4
2023年	1月	109.9	-1.8	-3.9	109.8	0.5	1.6
	2月	110.0	0.2	-4.2	104.5	-4.9	-5.4
	3月	110.9	0.8	-4.1	106.5	1.9	-1.6
	4月	113.9	2.7	2.5	109.4	2.7	2.5
	5月	109.9	-3.5	-3.3	102.6	-6.2	-8.1

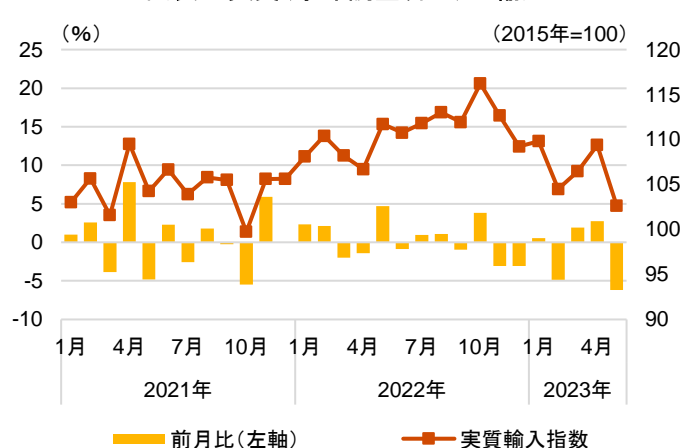
出所:日本銀行より筆者作成

図表4:実質(季節調整済)の輸出



出所:日本銀行より筆者作成

図表5:実質(季節調整済)の輸入



出所:日本銀行より筆者作成

片岡 剛士

チーフエコノミスト
PwC Intelligence
PwCコンサルティング合同会社

伊藤 篤

シニアエコノミスト
PwC Intelligence
PwCコンサルティング合同会社

PwC Intelligence 統合知を提供するシンクタンク
<https://www.pwc.com/jp/ja/services/consulting/intelligence.html>

PwCコンサルティング合同会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1 Otemachi One タワー Tel:03-6257-0700